



▲寒風沢島のお母さん方と加藤信助さん(写真右上)

浦戸諸島の寒風沢島には、市内唯一の水田があり、昔から生活の一部として稲作が盛んに行われていました。しかし、島の面積の半分以上を占めている農地は、高齢化や東日本大震災の影響で耕作者が減少しています。

寒風沢農園代表の加藤信助さんは、数少ない農地の耕作者として、自然豊かな浦戸諸島で「島そだち野菜」の栽培を行っています。

東日本大震災後から寒風沢島で農業を始めた加藤さんは「島の人たちと一緒に、島野菜をPRしていきたいです。今後は、島の野菜をブランド化し、市内の人たちに認知していただくこと、寒風沢島の魅力を感じて島で農業をしたいと思ってもらえる人が増えるように取り組んでいきたい。」と意気込みました。

浦戸の農業活性化へ 「島そだち野菜」の栽培と販売

今後は、加藤さんを代表として寒風沢島のお母さんたちとともに野菜生産者組合を作り、今回栽培された島トウガラシのほか、サツマイモやサトイモ、白菜など「島そだち野菜」の販売を行う予定です。

「これまで自家消費分しか作っていませんでしたが、自然豊かな寒風沢島で収穫される野菜のおいしさを島外の人たちにも知ってほしい」と寒風沢島のお母さんたちも期待をのぞかせています。

旨辛「鹽とうがらし」

1袋 200円

販売場所

- ・市役所本庁舎売店
- ・塩釜海の駅(塩竈市魚市場内)
- ・まちの駅



☎ 水産振興課 浅海農政係
364 1222

シリーズ 塩竈の魅力再発見⑥

地元で「おいしい」を楽しめるまち

「市外に行かなくても、おいしい食事とお酒が楽しめることが魅力です」と話したのは、観光振興ビジョン推進メンバーの阿部昌弘さん。

イベントが多くなる10月、運営に関わる阿部さんは、ターゲットは塩竈在住、在勤の人たちだと話します。

阿部さんは「塩竈在住、在勤で市内のお店を知らない人たちにイベントを通して知ってほしいで



観光振興ビジョン
推進メンバー
阿部 昌弘さん



すね。知らないお店は入りづらいですが、そこで生活している人の歩く姿、お店に入っていき姿が見えると、観光客の人も入りやすくなります。そうすれば、塩竈のおいしいを楽しむ人が増えていきますよね」と説明してくれました。

また「地元の人々の歩く姿が見える、にぎわいのある塩竈になったらいいですね」と笑顔を見せました。

皆さんが発見した塩竈の魅力をメールにて教えてください。

☎ 観光交流課人・まち交流係 ☎ 364-1165
Eメール kankou@city.shiogama.miyagi.jp

